

# モーター輪地実証試験の概要

## 試験エリア



モーター輪地実証試験は、防火帯を想定して電気牧柵で区画した牧区に牛を放牧し、移動させながら、牛の採食能力を活用した草(舌)刈りを行うものです。この過程で草の残存量、生育状況、牛の適応能力、必要経費・労働力などの調査を行うとともに、牧区の移動判断基準について検討しました。

### ● 牧区の設定

- 防火帯の防火機能を考えて、幅を基本的に30mとしました。
- 地形により幅を広くしたり、湧水池を取り入れたりします。

A 牧区：延長825m	} 計3,550m
B 牧区：延長825m	
C 牧区：延長1,000m	
D 牧区(固定牧区)：延長900m	

### 給水場

- A・B 牧区の境 } 監視舎よりポリパイプ(直径20mm)で導水
- C 牧区の入り口 } 監視舎よりポリパイプ(直径20mm)で導水
- D 牧区は自然湧水利用

### 給塩の補給：牛の移動毎に設置

### ★ 固定牧区の外に移動牧区を設定した理由

- 牧区を狭くして野草を均一に食べさせるため。
- 新しい草を牛に食べさせ、栄養の保持を図るため。
- 放牧開始時期の違いと、草の再生状態を調べるため。

### ★ 電気牧柵について

- 有刺鉄線より電気牧柵の方が簡単に設置でき、経費も安く、移動に便利です。電源はソーラーパネル(太陽光発電)を使用しました。

## 試験の経過

- 移動牧区は3牧区をA→B→C→A→B→Cの順に牛を移動しながら野草を食わせました。
- 牛の移動は、野草の残存量や牛が電気牧柵外へ首を出して採食する状態を観察し、適宜判断して行いました。
- 5月25日の放牧開始から、11月12日の放牧終了まで、放牧期間は174日に及びました。
- 今後、平成14年3月中旬の野焼きの調査と、さらにコスト計算を行います。



### < 入牧状況 >

